

# 学級経営の視点からの授業づくり

## — 「担任力」に着目して —

学習開発コース (12220909) 加藤 裕 樹

本研究では、学級経営の視点からの授業づくりの在り方を追究することを目的とする。先行研究の検討から、摩擦や葛藤の経験をしながら豊かな人間性が形成される学級集団の育成の必要性やその方法について整理した。また、「担任力」に着目した授業実践とその分析を行った結果、授業づくりと「担任力」の関連、今後の取り組むべきポイントと課題が明らかになった。

[キーワード] 学級経営, 担任力, 関わり合い

### 1 問題の所在と方法

#### (1) 問題の所在及び研究の背景

今日、急速に進む国際化、情報化等、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。国立教育政策研究所生徒指導研究センター「『学級運営等の在り方についての調査研究』報告書」(2005)では、「近年、小学校において学級運営や生徒指導にかかわる問題や事件等が多く発生しており、これまでそうした事象や新たな課題に対応して種々報告書等がだされてきている」と述べられている。さらに、「学級経営をめぐる問題の現状とその対応」(2002)での事例の収集と分析をもとに、学級がうまく機能しない状況をもたらす背景を「学級担任の状況、学校の状況」「子どもの生活、人間関係の変化」「家庭・地域社会の教育力の低下」「現代社会の問題状況と教育課題」の4つにまとめている。また、学級がうまく機能しない状況の直接的な要因を、「子どもの集団生活や人間関係の未熟さの問題」「特別な教育的配慮や支援を必要とする子どもへの対応の問題」「学級担任の指導力不足の問題」の3つにまとめている。

このような状況の中、山形県教育委員会は、授業を核とした学級・学年・教科経営の一層の充実を図るため、学級担任・教科担任に必要な力を「担任力」とし、その育成を目指している。

#### (2) 研究の目的

本研究は、今学校現場で求められている学級経営の視点からの授業づくりの在り方を追究することが目的である。

#### (3) 研究の方法

研究の目的を達成するため、以下のことに取り組んでいく。

- ① 学級経営の基本および意義の考察
- ② 「担任力」についての分析
- ③ ①、②を踏まえた授業の実践と分析

### 2 先行研究の検討

#### (1) 学級経営とその意義

金城(1998)は、学級経営について「教育活動を効果的に展開していけるように必要な条件整備を行うことで、学級を単なる集団からまとまりのある集団へ育てていくための、担任が行う意図的・計画的配慮のすべてをさす。学習集団、生活集団の場として豊かな人間性を形成していくことが学級経営の意義である。」と述べている。

また、「学級経営をめぐる問題の現状とその対応」(2002)では、「学級経営は、新しい生活集団・学習集団として設けられた学級という場において、さまざまな葛藤や摩擦を経験しながらも、その学級に固有の秩序を作り上げていく取り組みであると言える。」と述べている。

これらを踏まえると、摩擦や葛藤を経験しながら豊かな人間性が形成される学級集団を育てていくことが大切であり、それは学校生活の大部分を占める授業の中でこそ可能であると考えられる。

#### (2) 「担任力」について

山形県では、平成22年度に第5次山形県教育振興計画<sup>1)</sup>の見直しが行われた。その中で、平成22年度からの5年間の重点施策テーマを「変化す

る時代を主体的に生きぬく力をはぐくむ『いのちの教育』とし、その中で、「コミュニケーション」を大切にしたい学習活動を通じて心の通じ合う関係性を築き、子ども同士が考え合い表現し合う授業づくりを提唱した。

その後、『担任力』の育成に向けて(2012)を発行し、その中で「5教科による教育を一層推進するには、子ども同士が精一杯考え合い表現し合う授業づくりを進めることが、今後とも重要です。(中略)そのためには、まず、授業を核とした学級・学年・教科経営の一層の充実が必要だと考えています。」と述べている。

山形県教育委員会が推進する「担任力」とは、『学習指導力』『生徒指導力』『特別支援教育力』の3つを統合して、授業を核とした学級・学年・教科経営を行っていく力」とされ、授業改善の項目として以下が示されている。(表1)

表1. 「担任力」での「授業を改善する」項目

1	各時間の課題やめあては、子どもが学習の見通しをもてるものになっていますか。
2	子どもの意識や能力に合った、やりがいや手応えのある課題設定になっていますか。
3	子どもの思いや考え、表現(発言・ノートなど)が、他の子の学習材となるような手立てをとっていますか。
4	一人でじっくり取り組み、じっくり考える時間を保障していますか。
5	「わからない」「教えて」と安心して言える雰囲気が出ていますか。
6	子ども同士が教え合う場がありますか。
7	つまづきのある子どもに適切で具体的な支援を準備していますか。
8	学習の流れが見える板書と個人の思考が見えるノートになっていますか。
9	子どもが、授業で学んだこと、進歩・成長が実感できる場がありますか。
10	評価する規準がはっきりしていますか。

一年次の研究では、「担任力」での授業改善の項目10項目のうち、子どもの関わり合いに特に関連すると考えられる項目3, 5, 6を中心に授業づくりを行うものとする。

### 3 実践と結果(明らかになったこと)

#### (1) 対象児童と学級の状況

A市内X小学校で2012年11月15日に授業を行った。対象児童は小学校2年生(33名)である。

この学級は、積極的に自分の気持ちを主張することのできる子どもが多い。授業場面でも、発言も多く学習に対する意欲も高い子どもが多い。その反面、他者が発言している時に手遊びをしているなど、他人の話を聞くことがなかなかできない面もある。そのため、自分が発言しようとしているとき以外は友達の話に耳を傾けない子どももいる。一方、自分の考えに自信がもてず、発言できない子どもも見られる。また、特別な配慮が必要なため、学習支援員が日常的に関わっている子どもが1名、場面緘黙の子どもが1名在籍する学級である。

#### (2) 授業過程の概要と「担任力」との関連

本単元「新しい計算を考えよう」では、かけ算・かけ算九九に触れる中でその性質や意味を捉え、「一位数×一位数」の計算を確実にできるようにするということを主なねらいとする。

本時は、「2の段のひみつをさがそう」という学習活動を行う。かけ算九九の式やかけ算に関する絵から、それらの共通するところや違うところ、それぞれの意味などを考えることが中心である。学習の流れは、「個人追求」→「4人グループの班での交流」→「学級全体での交流」である。授業過程概要は表2の通りである。授業では、個人追求と交流を促すため、絵や式を用いて自由に記述することのできる学習プリントを一人ひとりに配付する。(写真1)

表2. 授業過程概略要

学習活動	授業改善のポイント (担任力)
2のだんのひみつをさがそう	
①秘密をさがす (1)個人追求  (2)班での交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で考える時間が確保できているか</li> <li>・「教えて」と言える雰囲気か</li> <li>・教え合える場か</li> <li>・子どもの表現が他者の学</li> </ul>

(3)全体での交流	習材になっているか ・「教えて」と言える雰囲気か ・教え合える場か ・子どもの表現が他者の学習材になっているか
②実際に秘密を用いて計算をする	・進歩・成長を実感することができる場か
③振り返り	

写真1. 実際の学習プリント



### (3)授業の実際

#### ①個人追求

個人で考え、プリントに書き込む活動では、スムーズに書き込むことができている子どもと、そうではない子どもで大きく差が出た。書き込むことができた子どもは、プリントを見ながら式や絵に工夫しながら書き込みをし、自分の考えを確かめたり整理したりしていた。そのため、書き込みを終えた子どもはやる事がなくなってしまっていた。

プリントに書き込むことができていない子どもは、プリントを見ても何を書けばいいのかわからないといった状態であった。

#### ②班での交流

班での交流活動では、4人グループを編成し、交流させた。班で交流することができていたグループとそうでなかったグループがあった。それは、交流できていなかったグループでは、4人での交流が成り立っておらず、2人が発表した後に自然発生的にその2人だけで交流を始めてしまったからである。そのとき、プリントに書き込むことのできていない子どもなど、一部の子どもの交流に参加していなかった。その後、全体に「今日わかったことをプリントに書き込もう」と声がけしたが、「〇〇さんの発表がわかりやすかった」「〇〇くんの考えがすごいと思った」と書く子どもがほとんどだった。

#### ③全体での交流

学級全体での交流場面では、発表者の意見に対し、うなずいたり、その意見につなげて発表したりする子どもがいた。「わからない人のために今の説明を自分の言葉で発表してくれる人いますか」と教師が発問すると、多く手が挙がるなどの場面もあった。その一方で、発表していない子どもが発表者のほうを向かず手遊びをしていたり、隣の子どものとしゃべっていたりすることがあった。そして、発表者が発表を終えないうちから挙手しようとしてしまうという子どもがいた。

ここまでの活動で授業終了の時間になり、実際にかけ算を用いて計算する時間をとることはできなかった。

## 4 考察

### (1)授業実践の結果から考えられること

#### ①個人追求の時間の質的な保障の必要性

個人追求の時間では、時間設定に配慮するだけでなく、子ども一人ひとりがじっくり考えることが必要である。

この課題の解決のために、学習プリントの吟味が必要である。本実践では、学習プリントは子どもにとって考えるための材料として不十分であった。その理由は、プリントに載っている情報が何を意味しているのかわからなかったから、またその情報を整理することが出来なかったからである。子どもが考える上で手助けになるよう、学習プリントを構造化する必要がある。また、学習プリントを構造化することは、子どもが交流に参加するための考えや疑問を明確化することにもつながる。

学習プリントを有効に活用することができれば、子どもにとって個人追求が一層考えの深まる時間となり、質的な保障につながると考える。

## ②班での交流の吟味

班での交流活動の時間、交流に参加していなかった子ともがいたことから、交流の形態を吟味する必要がある。ペア学習など子どもの実態に合わせた交流の形態にすることによって、子ども一人ひとりが摩擦や葛藤を体感する場を構成することができると考えられる。

また、学習プリントを用いながらの発表の仕方についてのモデルを示すことも大切である。それは、交流の際に学習プリントを用いることで、視覚から子どもの理解を促すことにつながるからである。また、子ども一人ひとりの表現方法の違いを視覚的に実感し、他者と交流することの必要感をもつことができると考えられる。

## ③全体での交流の吟味

全体での交流では、「誰のために」「何のために」発表しているのか不明瞭になりがちのため、交流の必要感をもたせることが大切である。その手立ての一つとして、「わからない人のために今の説明を自分の言葉で発表してくれる人いますか」という発問は、有効であったと考えられる。

また、子どもの思考や発言を視覚化する必要があると考える。それは、子どもが言語化することだけではなく、それを視覚化したものを見ることで、子どもがじっくりと考えることができるようになるからである。本時に当てはめると、板書を構造化し、発表したいいくつかの考えを教師や子ども自身が視覚化することである。そうすることによって、学習の成果を実感するとともに、個々の考えの違いと自分の考えを比較することを通して、摩擦や葛藤を体感することができると考えられる。

### (2)「担任力」の視点からの考察

「担任力」の視点からの授業づくりと分析から、個人追求の時間では、授業改善の項目2、4との関連、班交流の時間では、項目3、5、6、8との関連、全体交流の時間では、項目3、5、6、8、9との関連が深いと考えられる。

それらを踏まえると、摩擦や葛藤を経験することのできる授業の手立てとして「個人追求の時間の質的な保障」、「交流形態の吟味」、「学習プリントや黒板の有効活用」、「交流での必要感をもたせるための手立て」の4つが今後重点的に取り組む

べきポイントである。

## 5 到達点と課題

### (1)到達点

先行研究の検討を通して、学級経営では、摩擦や葛藤を経験しながら豊かな人間性が形成される学級集団を育てていくことの必要性が明らかになった。また、算数科実践授業の分析を通して、学習活動と「担任力」の授業改善の項目の関連性や今後取り組むべきポイントが明確になった。今後取り組むべきポイントは、以下である。

- ① 個人追求の時間の質的な保障
- ② 交流形態の吟味
- ③ 学習プリントや黒板の有効活用
- ④ 交流での必要感をもたせるための手立て

### (2)課題

「担任力」に着目した授業実践を積み重ね、実践結果を丁寧に分析することを通して、学級経営の視点からの授業づくりの在り方を追究していく。

## 注

- 1) 山形県教育懇話会の答申を踏まえ、山形県教育が目指す姿と、その実現のために必要な施策を明らかにした教育計画

## 引用・参考文献

- 金城千秋『望ましい人間関係を育てる学級経営』  
1998  
国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「学級運営等の在り方についての調査研究」報告書』  
2005  
国立教育政策研究所『学級経営をめぐる問題の現状とその対応—関係者間の信頼と連携による魅力ある学級づくり—』2000  
([http://www.nier.go.jp/kankou\\_kouhou/HOUKOKU.HTM](http://www.nier.go.jp/kankou_kouhou/HOUKOKU.HTM))  
文部科学省『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取り組み～』2011  
山形県教育委員会『「担任力」の育成に向けて』2012